

平成24年度 事業報告書

平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人アジアの誇り・プレアビヒア日本協会

1 事業の成果

平成24年7月、プレアビヒア近隣の国境地域からカンボジア、タイ両国軍隊が撤退した。カンボジア軍の撤退式には民間団体では現地で唯一活動をしている当会が招待され、カンボジア政府より「苦しい時にも活動を継続してくれた」との謝意表明を受けた。国境問題の解決は兎も角、両国の紛争がプレアビヒアへの公的機関の支援を遠ざけていることから、今後両国関係の更なる改善を期待している。カンボジア政府は現地道路整備、古代灌漑池の採掘、博物館の開館準備など着々と進め、エコ村では現在3千家族ほどが生活を始めている。

当会は「世界遺産プレアビヒア寺院を囲む大自然を守る担い手は、住民と彼らのコミュニティ」と認識し、彼ら自らの生活改善・収入の増加・ゆとりある生活実現のための農村開発支援、そして次代を背負う子どもたちへの教育支援を重点に活動を進めている。具体的な事業活動は、以下の通り資金調達等多数の問題点解決に至らず、遺憾ながら年初の目標を達成出来なかった。しかし会の活動の方向や目標、課題などが見えてきた意味ある年になったと考えている。

(1)植樹活動

エコ村第1回植樹祭を6月に開催した。この事業は緑の募金公募事業として行われたが、特筆すべきは、樹を植える子どもたちの笑顔が、一緒に樹を植える親たちの笑顔となったことである。各地からの移住で、それまで殆ど顔も知らなかった村人達が、一堂に会し笑顔を共有することが今後のエコ村の在り方に大きな意味があると考えている。また植樹に参加した小学生は園芸活動を始めており、更に学校周辺に植えた樹の下草刈りや水遣りも自ら行う等の活動に繋がっている。

植樹祭は1日と4日の2回に亘り実施。エコ村の児童・住民を主役に、アンコール大学生、当会の学生隊が加わり約250名の参加者が10カ所（総植樹面積約6ha）に40樹種、合計2,444本を植樹した。

(2)農村開発支援活動

農業技術普及のためのモデル農園は、当初の2つから5つとなり収穫も増加している。これからエコ村の中心事業となるオーガニック農業の導入・普及活動は、タイ大賀農場で学んだ研修生たちが、エコ村で野菜栽培やEM（有用微生物）液の培養・配布など実践活動を行っている。収入増を目的に、ひまわり生産導入や稲の実験栽培を行い、養鶏等家畜飼育の調査も始めている。今後は井戸掘削や家畜飼育等目に見える事業実施により住民への浸透を図る段階に入ったと考えている。

(3)世界文化遺産・生活環境改善教育

小学校生徒への生活環境改善教育は、校長・教員の努力により小学校およびその周辺は以前と比べ格段に清潔になってきている。

エコ村小学校で、学校生活における清潔・整頓等生活習慣教育を継続実施。教材配付、校内清掃、ゴミ分別等が行われているが、教室不足から設置したゴミ集積小屋は現在教室として利用されているが、小学校では自主的に園芸活動が始まる等の成果があった。

世界文化遺産教育は、寺院遺跡の素晴らしさを知って貰うため、小学生写生大会を前年に続き開催した。小学生の作品向上は顕著で、小学校・地元関係者から活動継続を要請されている。

写生大会は、当会学生隊が小学校5、6年生を対象に世界遺産寺院で8月と2月実施した。画材は日本企業から支援提供されており、学生隊はこの手配から、安全確認の事前現場調査、小学生の引率・指導、表彰など地元メディアも賞賛する活動を行った。

(4)学生隊の現地活動は、写生大会の他、古着等の物資支援、エコ村住民の生活調査、現地マーケットの調査や小学生との遊戯等を通じ住民との交流を着実に深めている。

(5)当会会長森田徳忠の写真展「アジアに生きて40年写真展」を開催し、プレアビヒアにおける活動の紹介と会員増強活動を行った。

(6)会員増強活動はWSF(Women's Swim Festival)でのチラシ配布等継続実施し、3月末会員数は正会員19名、賛助会員68名（うち団体2名）計87名となり、前年対比21名の増加となった。

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
アジア地域の遺跡周辺自然環境保全、修復事業	遺跡周辺整備 (境内の遺跡を除く周辺部コンセプト作成、当面必要となる事項の検討)	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	10人	住民45,000人、観光客200,000人/年	プロジェクト調査費
	バッファークゾーン(環境保全区域)の保全整備 (遺跡周辺約230haの地域)コンセプト作成、提案協議、現状の調査	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	10人	住民45,000人、観光客200,000人/年	現地調査 基本構想 提案協議
植林、植樹、苗木の育成および事前調査事業	植林 (遺跡周辺、バッファークゾーン、エコビレッジの植林)現状調査、中長期の事業計画の作成準備、第1回植樹祭開催	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	270人	住民45,000人	植樹祭 1,487
地域住民の生活向上と自立のための人材教育、職能訓練、農業支援事業	農村開発支援 エコビレッジ内オーガニック農業導入・普及。 地域住民の生活向上とコミュニティ形成)モデル農園づくり、研修生派遣	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、タイ国農場、東京法人事務所	20人	住民45,000人	オーガニック農業導入 517
遺跡並びに周辺地域の観光資源開発支援事業	ウェルカムビレッジ(エコツァ客用滞在施設)開発 宿泊設備の整備 コンセプト作成、提案、協議 中長期の事業計画の作成準備	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	10人	住民45,000人、滞在者3,000人/年 観光客200,000人/年	プロジェクト調査費
	観光プログラム開発 スタディツアー (現地体験研修) エコツアーリズム (環境問題体験ツアー) ヘリテージツアー (遺跡巡りツアー) などの開発支援	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	10人	スタディツアー参加者10人、観光客200,000人/年 カンボジア住民50人×365日のべ18,000人/年間(雇用促進受益者)	プロジェクト調査費
子どもたちのための教育支援事業	教育支援プログラム策定 (文化遺産・環境保全教育) 小学校学校生活環境改善教育、 写生大会	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	50人	子どもたち10,000人	写生大会 44

日本のNGOと海外のNGOとのネットワーク調整及び交流事業	ネットワーク作り 日本及び海外他NGOとのネットワーク作り カンボジア留学生との交流	年間	東京および全国各地 韓国、フィリピン、ネパール、台湾、マレーシア、中国 カンボジア国ブレアビヒア遺跡周辺	10人	NGO関係者 1,000人 カンボジア留学生300人	連絡、会議費
遺跡全般に係る広報事業	広報活動 ①写真展開催 ②ホームページ改正 ③チラシ配布	年間	カンボジア国ブレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所、東京、栃木県	20人	関心ある一般市民2,000人	写真展、ホームページ、227

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
物品販売事業	なし	なし	なし	なし	0
機関紙等への広告掲載事業	なし	なし	なし	なし	0